

実践⑥ 読書ボランティアグループ 虹色のゆめ（出水市）

「虹色のゆめ」は、高尾野図書館親子読書教室に親子で通う仲間と活動を始め、平成12年に成立しました。

現在の会員は10名で、月に一回程度の話し合いを高尾野図書館で行い、市の事業「お話玉手箱」のプログラムを考えたり、選書をしたりしています。

市の事業「ブックスタート」や「セカンドブック」の際に読み聞かせをしたり、年一回の「わくわく☆おはなしフェスタ」に参加したりしています。また、「お話玉手箱」では、子ども会や児童クラブに出向いて、お話の他にアニメーションや手遊びなどもしています。最近では、高齢者の「いきいきサロン」に呼ばれることも多くなりました。高齢者には、落語をすると喜ばれます。

他には、小学校・義務教育学校で行われている朝のお話の時間や親子読書会にも呼ばれて行きます。

「お話玉手箱」や親子読書会で読む本は、「テーマ」を決めて選書するようにしています。例えば7・8月は「平和」、12月は「クリスマス」といった感じです。

『ぐりとぐらのおきゃくさま』を読んだ時に、紙粘土で大きなクリスマスケーキを作って最後に出したら、子供たちが「ほんもの？」とびっくりして見ていました。

また、子供たちが飽きないように、合間で手遊びやアニメーション、簡単な製作活動をするようにもしています。6月は高尾野図書館の『夜のお話会』で、『うみの100かいだてのいえ』を読みました。読んだ後に、「自分の海の家を作ってみよう」と、魚のシールを貼ったり、絵を描いたりして、お話のおうちを作ってみました。子供たちが、隣の友だちと1階はくらげ、2階は魚とおしゃべりしながら楽しそうに作っている様子を見ると、絵本の世界が広がっていくなあとうれしくなりました。

AIが進化していき、教科書までもタブレットを使う子供たちの教育環境ですが、『本を読み想像すること』や『感想を友だちと共有すること』など、AIにはできない、本の魅力を伝えていきたいと思っています。

